

	事業名	目的・概要	評価項目	指標(定量)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和7年度	達成状況	令和8年度	結果に対する考察 ※定性評価	今後の方向性	
					実績	実績	実績	目標		目標			
一般 介護 予防 事業	TAMAフレイル予防 プロジェクト (TFPP)	プレフレイル（虚弱）段階の高齢者を早期に発見し、介護予防活動につなげることで、健康増進、介護予防を推進する。気づきから行動変容までを目的として、2段階の質問項目と4項目の測定により、身体の虚弱、低栄養、認知症、口腔機能、社会参加等のリスクを判定する。大規模実施においては、体験プロジェクトを行い、生活に取り入れられる活動を紹介。大学、介護予防リーダー等の市民と協働で取組める事業。	プロセス	地域住民、企業、専門職が総合事業を理解し参画する	TFPPに参画した人数、専門職等の割合						【規模別内訳】 大規模会場●回 ●人 中規模会場●回 ●人 小規模会場●回 ●人 ※小規模は通いの場向け 【新たな活動始めた人の割合内訳】 2回目移行の参加者数●人 フレイル予防に気をつけるようになった●% 運動するようになった●% 口の健康に気をつけるようになった●% 栄養に気をつけるようになった●% 社会参加するようになった●% 【状態の維持回線の割合内訳】 維持●% 改善●%		
			プロセス②	測定結果を基に集団の介護予防機能強化に向けた働きかけを行っている※小規模のみ	機能強化（専門職派遣）につなげた件数								
			アウトプット	TFPPの実施	実施回数 参加人数								
			初期アウトカム①	多様な選択肢を知る	自分に合った活動や利用できる機会があることを確認できたと答えた人の割合								
			初期アウトカム②	セルフマネジメントできるようになる	新たな活動を始めた人の割合 ※2回目以降の参加者								
			中間アウトカム	フレイルリスクの低下	状態が悪化していない、生活機能を維持・改善できている高齢者の割合（ファーストチェックの結果、1回目と2回目以降の比較）								
	うんどう教室	運動を習慣化することにより、市民の介護予防を図ることを目的として、地域指導員が主体的に実施。乞田・貝取ふれあい広場公園、豊ヶ丘南公園に設置された運動遊具を活用したうんどう教室をそれぞれ月1回開催。 ・平成13年度より「豊ヶ丘南公園のうんどう教室」開始 ・平成24年度から「乞田・貝取ふれあい広場公園のうんどう教室」開始	プロセス	市民が気軽に参加し、安全に活動できるものとなっている	各教室で活動する地域指導員の人数							・乞田貝取ふれあい広場公園 参加者実数：●人 延べ参加者数：●人 (指導員参加者実数：●人) ・豊ヶ丘南公園 参加者実数：●人 延べ参加者数：●人 (指導員参加者実数：●人)	
			アウトプット	うんどう教室の実施	実施回数 参加人数								
			初期アウトカム①	活動に参加している高齢者が増える	新規参加者数								
			初期アウトカム②	セルフケアできている高齢者が増える	運動頻度「週1日以上」の割合 (初回からの変化)								
			中間アウトカム	フレイルリスクの低下	状態が悪化していない、生活機能を維持・改善できている高齢者の割合（新規要介護認定率）								
	地域介護予防教室	虚弱な高齢者が容易に通える範囲で介護予防リーダーが中核となって運営し、住民の積極的な参加で自立圏に行き通いの場。「元気アップ体操」を共通のツールとしてを実施。市は運営費の補助とリハビリテーション専門職を派遣し支援を行う。	プロセス	虚弱な高齢者も通うことのできる活動となっている	要介護認定を受けている初回参加者数、割合 虚弱な高齢者（要介護認定がある高齢者）の地域介護予防教室の参加率							【介護予防リーダー定例会の内容】	
アウトプット			地域介護予防教室活動の実施	地域介護予防教室の数									
初期アウトカム①			活動の継続率	活動の継続率									
初期アウトカム②			社会活動に参加している高齢者が増える	地域介護予防教室の参加人数（実数）									
初期アウトカム③			セルフケアできている高齢者が増える	・運動頻度「週2日以上」と回答した人の割合 健康を意識した生活をしていると回答した人の割合 (食事・栄養・睡眠に気をつけるなど)									
初期アウトカム④			住民同士のつながりができる	参加してよかったと感じることとして人とのかわりと回答した人の割合									
介護予防リーダー 養成	地域で介護予防活動を実施する介護予防リーダーを養成し、地域における介護予防事業を推進することを目的として実施。 介護予防と老年学、介護予防に必要な運動学などの全12回の講座を開催。	プロセス①	養成講座の参加につながるよう周知を実施する	説明会の参加人数							【活用ポイント数内訳】 10～19p ●人 20～29p ●人 30～39p ●人 40～49p ●人 50～59p ●人 60p以上 ●人		
		プロセス②	活動を開始・継続できるよう相談を受けるなど必要な支援を行う	介護予防リーダー定例会の実施回数									
		アウトプット	介護予防リーダーの養成	介護予防リーダー養成講座の修了者数									
		初期アウトカム①	介護予防リーダーとして活動する	介護予防リーダーとして活動している人数									
		初期アウトカム②	社会活動に参加している高齢者が増える	介護予防リーダーが参画する通いの場等の参加人数 ※地域介護予防教室の参加者数									
		中間アウトカム	生きがいを持っている	介護予防リーダー活動の継続率 地域の人から何らかの役割を期待されたり頼りにされていると思う人の割合									
		中間アウトカム	フレイルリスクの低下	状態が悪化していない、生活機能を維持・改善できている高齢者の割合（新規要介護認定率）									
介護予防 ボランティア ポイント	高齢者がボランティア活動を通じて社会参加や地域貢献を行い、自身の健康維持・介護予防を図ることを目的とする。ボランティアを行った方にポイントが付与され、ポイントに応じた交付金を支給する。	プロセス	活動につながるよう事業の周知を実施する 選択できるボランティア活動を充実させる	説明会の開催数・参加人数 受け入れ施設向け説明会の実施回数、参加人数							【ボランティアポイント受け入れ事業所種別】 介護●箇所 子ども●箇所 障害●箇所 その他●箇所		
		アウトプット	介護予防ボランティアポイント事業を実施する	登録者数 受け入れ施設の数									
		初期アウトカム①	多様な選択肢を知る	自分に合った活動や利用できる機会があることを確認できたと答えた人の割合									
		初期アウトカム②	社会活動に参加している高齢者が増える	ポイント活用申請者数									
		初期アウトカム③	住民同士のつながりができる	参加してよかったと感じることとして人とのかわりと回答した人の割合									
		中間アウトカム	生きがいを持っている	地域の人から何らかの役割を期待されたり頼りにされていると思う人の割合									
		中間アウトカム	フレイルリスクの低下	状態が悪化していない、生活機能を維持・改善できている高齢者の割合（新規要介護認定率）									

3年毎に評価

